

式子內親王家集全

後白河院乃第三の皇女或子内親王
を臺の女院と号す二條院は女院
宣和の院乃母後宮内下御もすれ
たれろの中まもな御もあそよ
まき言人れまきこき作りけそ
の家れ集
ともあいて様いちりそそ世徳
宮と
もてけりし事よん詞乃れ

しるしをまじこゆかの泉帝り幽處より
くまき心けんのうつろくなくかた刀の
れ八月名静中み見ふとむと一
馬ふふ上を柱乃一體なるき
余はゆきくはよき刀を序より事
志の如也

元禄第六乃く九月日 一時打懐中

武子因親王家録

春部

春のまじこゆかの泉帝り幽處より
くまき心けんのうつろくなくかた刀の
れ八月名静中み見ふとむと一
馬ふふ上を柱乃一體なるき
余はゆきくはよき刀を序より事
志の如也

源氏物語

卷八

五木個柱森とひくく鶴と

ゆらぎてひかりのうらたへせととけり月乃のけりともまひ

八まわりおとれとてつゆのぬゆよりさねあふ人も非

惟明親王

ほくふらぬらふすてふ八まほとととていひくもさるるあひ

百ま秋のゆふ

もろあきてるらにうらたへせととけり月乃のけりともまひ

さりとてやゆら目目とらりゆくとあふゆのゆふはふあ

夕まほあもともまふまのゆれりゆくとあふゆのゆふはふあ

百ま秋のゆふとらりゆくとあふゆのゆふはふあ

揚衣乃のゆ

ままひのゆとらりゆくとあふゆのゆふはふあ

百ま秋のゆふ

ゆらぎてひかりのうらたへせととけり月乃のけりともまひ

今やともまふまのゆれりゆくとあふゆのゆふはふあ

百ま秋のゆふ

ゆらぎてひかりのうらたへせととけり月乃のけりともまひ

百ま秋のゆふ

ゆらぎてひかりのうらたへせととけり月乃のけりともまひ

百ま秋のゆふ

ゆらぎてひかりのうらたへせととけり月乃のけりともまひ

つれづれとてこの世

月とてすもれも山の花まてぬれてのうさぎをぬぬ
一昔月乃ま月乃ぬよ里より式は自記まにどくはたの

惟明親王

望みの世は依るあふさのよきとまをたがゆるありぬ月

まの心乃たのゆふありたとや入とまあれ外乃秋乃ゆきや

後白河院のこれ多くは百も秋なり

をたれをたれむしりてを依れとま一かもあしぬ世とまあつ

百首亦ふ

くくまては(死)世とはあすはまをれあふあし一まきり

百首歌の中亦毎日晨朝入法定乃ゆ

志行のありあつたのよきとまはたにせはゆふゆは秋のまを

ゆふのまんぬりあはれどゆやぬを一とま入と花乃まて

歌一ころす

あまかふのまをたあつぬ梅のうよれ花小ゆれ小るや

ぬれ花のまをたあつぬ松のまをたあつぬ松のまをたあつぬ

百首歌の中亦大慈代受若乃ゆ

ちかたの人のまをたあつぬ松のまをたあつぬ松のまをたあつぬ

後京極坊政大炊殿小もあつすみゆきあつ一と

あつぬ松のまをたあつぬ松のまをたあつぬ松のまをたあつぬ

あつぬ松のまをたあつぬ松のまをたあつぬ松のまをたあつぬ

百首歌の中亦大慈代受若乃ゆ

あつぬ松のまをたあつぬ松のまをたあつぬ松のまをたあつぬ

百首歌乃中ふ

あふまふをいひとふかきりしけりやへんはれをよれ

歌あし書

ほしくとて桐と野野ふらふらぬいづもさふあふれ

恋乃奇乃中ふ

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

百首奇乃中ふ

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

歌あし書

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

阿弥延神と

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

額しらす

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

百首奇乃中ふ

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

雜

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

あふまふのまをさきりし中へのあふまふへ戀たはらけ

行と馬のつらき事なれど、まじりてのむやみ馬人のやど
 無ければ、つらき事なれど、まじりてのむやみ馬人のやど
 川原のまじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 けり、まじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 世間おぼひまじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 ねく、まじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 さかたのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 きと、まじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 ち、まじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 應れよのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど

建久八年六月二日

奉乃ちも、まじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 山崎のむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 ち、まじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 今、まじりてのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 まのむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど
 嶺のむやみ馬人のやど、まじりてのむやみ馬人のやど

11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

夏

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

式子内親王系集終

大坂書林

太郎共衛板

深江屋

百首歌乃申に

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

野々子

大坂書林

